

船橋市議会議員

(38歳)

みっはし

三橋さぶろう

2017年3月1日発行

議会活動報告



市役所の耐震性能

東日本大震災から6年。船橋市も更に災害対策を進める必要があります。今回は現在開かれている平成29年第1回定例会で市政執行方針及び議案に対する質疑で、市役所の耐震性について質問を行いました。要約してご報告いたします。

質問者：三橋さぶろう

本年度に委託して耐震診断を行った結果はどのような報告だったのでしょうか？

答弁者：企画財政部長

旧耐震設計基準で設計された建物について正しく耐震性を把握するための指標の一つである構造耐震指標、Is値は0.655でした。

質問者：三橋さぶろう

万一、大震災が発生した場合、消防が対応していくこととなりますが、消防署や分署、出張所の建物がしっかりと残っていないと活動ができなくなってしまいます。消防の庁舎等の構造耐震指標 Is値は現在どのようになっているのかお尋ねいたします。また、小中学校は避難所となります。高い耐震性が重要だと思えます。市内の小中学校の構造耐震指標 Is値は現在どのようになっているのでしょうか？

答弁者：消防局長

耐震診断の対象となるものが5か所。消防局・中央消防署合同庁舎はIs値0.64で平成28年度に建替え等のコンサルタント委託中。東消防署と三山分署、北消防署は今年度、耐震補強工事が完了しIs値0.9以上になるよう行っています。三咲分署は平成29年度予算で耐震補強工事を行う予定です。

答弁者：管理部長

文部科学省では小中学校施設は構造耐震指標 Is値を0.7以上としており、本市は体育館は平成25年度までに、校舎については平成27年度までに耐震補強工事を実施し、Is値は0.7以上を確保しています。

質問者：三橋さぶろう

この数字を聞いて大変疑問に感じるのですが、市役所本庁舎のIs値は0.655ですので、学校のIs値0.7と比べると大地震が起きた場合、市役所庁舎の方が壊れやすいこととなります。市役所本庁舎の構造耐震指標 Is値が学校の構造耐震指標 Is値より低くてよいものなのでしょうか？
(うら面へ)

三橋さぶろう プロフィール

- 1978年 長野県木島平生まれ(38歳)
- 2002年 中央大学商学部卒業
株式会社カネボウ
江東区健康スポーツ公社
- 2008年 衆議院議員 野田佳彦秘書
- 2011年 衆議院議員 若井康彦公設秘書
- 2015年 船橋市議会議員選挙 当選
・文教委員会 ・広報委員会 ・民進党会
- 特技：クロスカントリースキー
1998年長野オリンピックボランティアスタッフ
2002年ソルトレイクシティ・パラリンピック日本代表コーチ
- 家族：妻、息子(4歳)

(前面から)

答弁者：企画財政部長

Is 値は0.655あり、市としては耐震改修促進法の規定に基づき震度6強の地震の振動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が低いと判断している。

質問者：三橋さぶろう

本庁舎はその基準をわずか0.055しか上回っていません。本当にこれで大丈夫なのか不安を覚えます。国土交通省では「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」があり、地震や津波等の災害に対する安全性に関する基本的事項を定めたものがある。この基準では、建物を用途や目的などで分類し、それぞれに耐震安全性の目標を示しています。

1類は災害応急対策活動に必要な建築物のうち特に重要な建築物。大地震後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし十分な機能確保が図られる。Is 値は0.9以上。2類は、災害応急対策活動に必要な建築物及び多数の者が利用する建築物。大地震後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、機能確保が図られている。Is 値は0.75以上。3類、大地震により構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし人命の安全の確保が図られる。Is 値は0.6です。

この基準を参考に各自治体で本庁舎の耐震性を考えています。近隣の白井市では分類2に位置づけて、今ある庁舎を減築してIs 値を0.75にするように進められています。市川市では、本庁舎は1類に位置づけ、Is 値を0.9になるように耐震補強工事でも検討されましたが、費用や工法の関係で実現が難しかったため新庁舎建設になりました。また、鎌ヶ谷市では同じく本庁舎を1類に位置づけし、Is 値0.9の耐震性能に相当するように免振工事を行うそうです。このように近隣市でも市役所庁舎のIs 値を高く設定しているところもあるのに、船橋市は0.6あればいいと判断していますが本当に震度6強以上の地震が来ても大丈夫なのでしょうか？お尋ねいたします。

答弁者：企画財政部長

先ほども答弁しましたが、倒壊又は崩壊の危険性は低いと考えています。

質問者：三橋さぶろう

今のIs 値から考えると倒壊はしないで済みますが、壁や柱などに損傷が出ると思いますが、そのまま使えるとは思えません。しっかりとした災害応急対策活動もできるかどうか疑問です。罹災証明書の発行や被災者支援が滞ると思いますし、通常の行政サービスも行えなくなるのではないのでしょうか？熊本地震では益城町の庁舎は損壊して使えなくなり、業務に大きく支障をきたしました。この庁舎は2011年に耐震診断を受けIs 値が0.6に達していなかったため、翌年の2012年に耐震補強工事を行い、Is 値が0.75に改善されました。しかし、熊本地震では倒壊はしないで済みましたが、庁舎は破損し使用できなくなり業務に大きな影響が出ました。Is 値が0.75ある庁舎も使用できなくなった実例です。本当にこのまま、市役所本庁舎は何もしなくてよいのでしょうか？何か対策を考える必要があると思います。

答弁者：企画財政部長

被害状況につきましては、実際には地震時の地震動や地盤の状況等によって大きく変わるといわれています。可能な限り安全面の確保に努めます。

Is (アイエス) 値とは「構造耐震指標」といい、耐震診断で判断の基準。昭和56年に改正された現在の構造耐震指標では、大地震時に必要な「保有水平耐力」を建築物が保有しているかどうかを検討するように規定しています。しかし、昭和56年以前の旧耐震設計基準の建築物は設計方法が現在と異なるため、現在と同様な「保有水平耐力」に基づく方法で耐震性の検討を行うことができません。このため、耐震診断では建物の強度や粘りに加え、建築物の形状や経年状況を考慮した耐震指標＝Is 値を計算します。この求められたIs 値は「建築物の耐震改修の促進に関する法律」により震度6から7程度の地震に対するIs 値の評価が次の3つに分類されます。

- Is 値が 0.3 未満は、倒壊または崩壊する危険性が高い
- Is 値が 0.3～0.6 未満は倒壊または崩壊する危険性がある。
- Is 値が 0.6 以上 倒壊または崩壊する危険が低い。

ご意見やご要望をお寄せください。

〒274-0063 船橋市習志野台4-10-12 (新京成線習志野駅から徒歩4分)
電話：047-402-2810 FAX：050-3488-3190
E-mail: funabashi@mituhashisaburo.jp
HP: <http://mituhashisaburo.jp>
三橋さぶろう まで

事務所にお越しの場合は、あらかじめご連絡いただくと助かります。